

特集



バナナの輸入

- ☆バナナの輸入が増えています！
- ☆東京港が輸入数量及び金額ともに港別では全国トップ！
- ☆フィリピン産の輸入が圧倒的！中南米産も増加中！



はじめに

皮をむいたら、そのままパクリ。バナナは、甘くて柔らかく、栄養価が高いことなどから、赤ちゃんの離乳食からスポーツ選手の栄養補給まで、大人気の果物です。

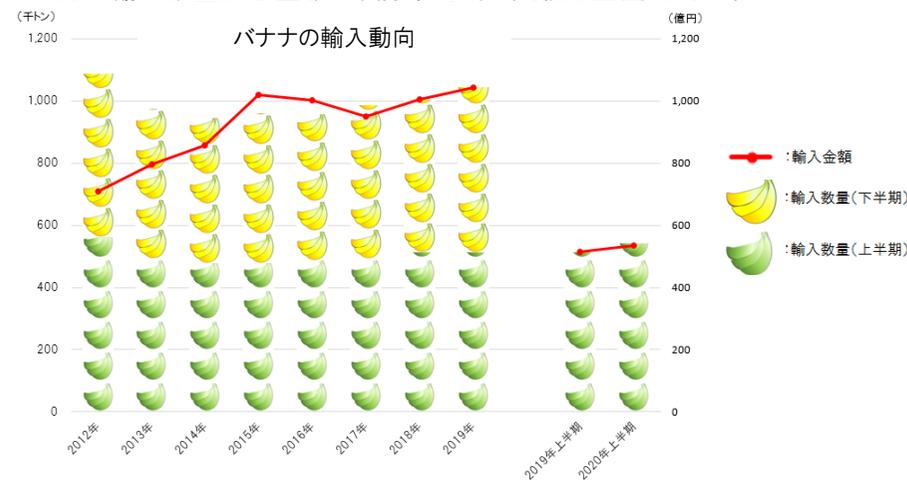
総務省の家計調査結果によると、バナナの家計における年間購入数量は2004年から、年間支出金額は2018年から、果物のトップになっています。これほど人気がある果物ですが、国内での生産が少ないことから、流通しているものの多くが外国からの輸入品です。

バナナは、バショウ科の多年草で、熱帯地域でよく育ち、栽培を始めて約9～14か月後、生育した実を全房ごと切り取って収穫します。その後、切り倒した茎の根の脇から伸びてきた子株をまた栽培します。世界に1,000種類以上ある¹と言われるバナナのうち、食用バナナは、でんぷん質が多く茹でるなど加熱調理して食べる「クッキングバナナ」と、そのまま生で食べる「デザートバナナ」に区別されることがあります。世界のバナナ生産量に占めるクッキングバナナの割合は4割程度²ですが、わが国ではバナナといえばデザートバナナを思い浮かべる人がほとんどではないでしょうか。

かつて食用バナナは、貿易統計では「生鮮のもの」と「乾燥のもの」に区分されて計上されているのみでしたが、国際連合食糧農業機関(FAO)の提案を受け、グローバルな食糧安全保障問題に関する貿易動向の把握などを理由に、2012年よりクッキングバナナの代表格である「プランテイン」と「その他のバナナ」のそれぞれについて「生鮮のもの」と「乾燥のもの」に区分されるようになり、現在の統計に至っています。わが国では、広くなじみのあるデザートバナナが含まれる生鮮の「その他のバナナ」の輸入が、生鮮バナナの輸入全体の99%以上を占めています。

なお、本資料において以後「バナナ」とは、生鮮の「その他のバナナ」のことを指すこととします。

バナナの輸入動向をみてみましょう。2012年以降、輸入金額は概ね増加傾向にあり、2019年は最大となりました。輸入数量については、2012年から一旦減少傾向にあったものの、2017年から2019年にかけて増加傾向にあります。さらに、2020年上半期(1-6月)の輸入数量及び金額は、前年同期の実績を上回りました。



本特集の「バナナ」は、輸入統計品目番号の0803.90-100：その他のバナナ（生鮮のもの）に分類されるものについてまとめたものです。

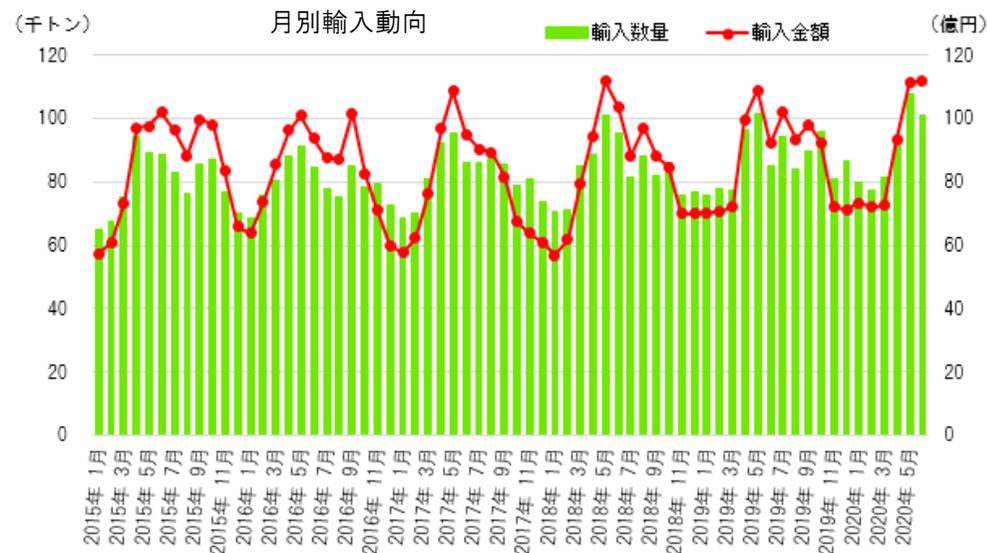
月別動向

バナナは、年間を通じて収穫される果物です。

しかし、わが国の月別の輸入動向を見ると、毎年4～5月頃がピークで、その後減少しはじめ、1月頃に増加に転じる…というサイクルをほぼ繰り返しています。これは、夏の暑い時期にはメロンやスイカ、秋以降にはりんごやみかんなどの果物が出回ることから、消費者がバナナ以外の果物を選ぶことが多くなるという国内需要の傾向と密接に関連しています。

一方、バナナの関税率は、輸入される時期によって関税率が異なる「季節関税」が適用されており、「毎年4月1日から同年9月30日までに輸入されるもの」(例：特惠関税10%)は、「毎年10月1日から翌年3月31日までに輸入されるもの」(例：特惠関税20%)よりも低い関税が課せられることになっています。

季節関税は、国産農産物の出回り期が季節的に偏っている場合、その時期に競合する輸入品に対して高い関税を課すことによって国産農産物の保護を図り、その他の時期には低い関税を課すことによって消費者の要望に応える目的で導入されています。ちなみに、季節関税が適用されている対象品目には、他にオレンジ、ぶどうなどがあります。



地域（国）別動向

フィリピン産バナナの輸入シェアは、1973年以降、1位を堅持しています。フィリピンの代表的なバナナ生産地であるミンダナオ島は、台風の通り道になることが少なく、品質が安定したバナナの大規模栽培が行われています。

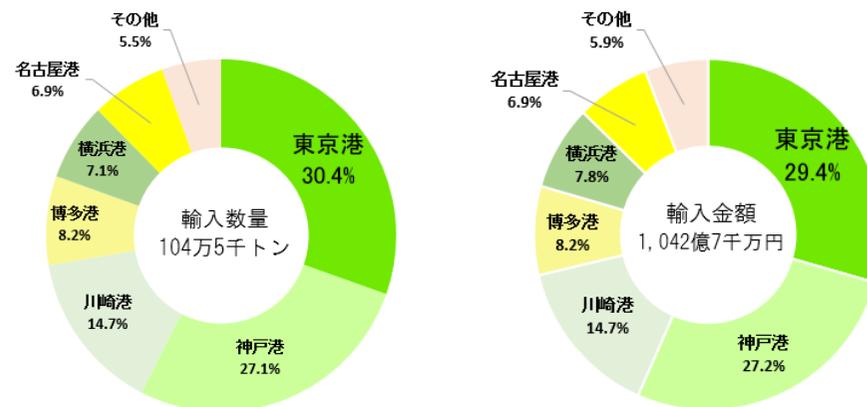
近年では、エクアドルを筆頭にメキシコなどの中南米や、インドネシアなどフィリピン以外のアジアを生産地とするバナナの輸入も増えています。

これは、近年の気象変動に伴う台風の進路の変化やその他の原因で地域的なダメージがあった場合の大幅な輸入減少のリスクを回避するため、複数の供給先を確保し、安定供給を図ろうとする意向の表れとみられています。



港別動向

東京港の2019年におけるバナナの輸入数量の全国シェアは30.4%、輸入金額の全国シェアは29.4%で、輸入数量及び金額ともに港別では全国トップとなっています。大消費地である首都圏が控えていることが、その要因と考えられます。



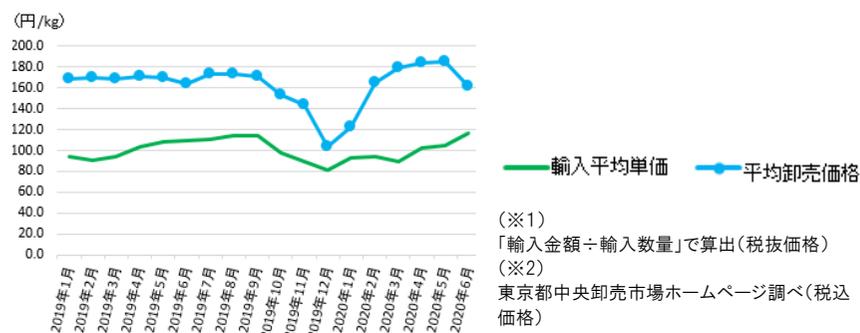
輸入数量港別構成比 (2019年)

輸入金額港別構成比 (2019年)

「巣ごもり需要」？

輸入シェア第1位であるフィリピン産バナナの2019年1月以降の輸入時のキログラムあたりの平均単価(バナナの輸入金額を輸入数量で除した数値。以下、「輸入平均単価」といいます。)と東京都中央卸売市場におけるフィリピン産バナナのキログラムあたりの平均卸売価格(以下、「平均卸売価格」といいます。)を調べてグラフにすると、下図のようになります。

フィリピン産バナナの輸入平均単価(※1)と平均卸売価格(※2)



輸入平均単価と平均卸売価格は、どちらも2019年12月に一時的に落ち込んでいます。その後、2020年1～5月では、輸入平均単価は緩やかな上昇傾向を示していますが、平均卸売価格はそれを上回る上昇傾向にあったことが確認できました。

国内において、バナナは卸売市場を通らずに流通することが多いため、平均卸売価格の変化から国内の需給動向を把握することは容易ではありませんが、この期間の平均卸売価格の上昇には、需要の増加が影響したことが考えられます。

この背景には、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休校や在宅勤務などで多くの方々が家にいる時間が増えたことによって、比較的手頃な値段で、簡単に小腹を満たすことができるバナナの需要が高まるという、いわゆる「巣ごもり需要」があったものとみられています。

ひとくちメモ

なお、この時期には、フィリピンの生産地では、新型コロナウイルス感染症対策として大規模な都市封鎖に伴う操業停止が命じられました。デリケートな取り扱いが必要なため収穫や包装を人手に頼るバナナの流通にとっては、操業停止は大問題であり、出荷が大幅に減少する可能性もあったそうです。ただし、フィリピンの生産者団体と日本の輸入団体が協力し、適切な感染防止対策を図り、わずか数日間の停止期間のみで出荷作業を再開できたそうです。もしかしたら、新型コロナウイルスの感染拡大のために、わが国の食卓からバナナが一時的に消えていたかもしれません…？

おわりに

バナナに関する話題をご紹介します。

茶色バナナって？

バナナは、植物防疫法の規定上、未成熟な緑色のバナナしか輸入できません。その未成熟バナナを、室(むろ)と呼ばれる特別な倉庫で植物ホルモンの1つであるエチレングスを使って食べ頃の状態にします。これを「追熟」といいますが、ひとくちに「未成熟」と言っても、固さや包装はそれぞれ異なるため、ほどよく熟した状態にするのは知識と経験に基づいた湿度や温度などの追熟条件の調整が必要です。この工程を経て、食べ頃になったバナナが出荷され、店頭に並ぶことになります。

店頭に並んだばかりのバナナは両端が緑色であることがありますが、熟成が進むと全体が黄色くなり、さらに熟成が進むと、シュガースポットと呼ばれる茶色い斑点が皮に現れます。シュガースポットが出た茶色バナナは芳醇な甘みと香り、柔らかさが楽しめるほか、インターロイキン(IL-12)やポリフェノール、リン脂質といった物質を含み、免疫細胞への作用や胃粘膜の保護など、様々な効果が期待できるそうです。³

(輸入直後)----- (熟成室で熟成) -----> 青めバナナ 黄色バナナ 茶色バナナ



「バナ活」人口増加中！

バナナをジュースやスムージーにする方はいらっしゃいますか？最近流行の「菌活」は発酵食品などを積極的に食生活に取り入れることを指しますが、バナナを積極的に食生活に取り入れることを「バナ活」と言うそうです。最近ではバナナジュースを販売する専門店があちこちに出店しており、ますます手軽に「バナ活」ができそうです。

喫茶店などのバナナジュースは、バナナと牛乳などを材料とするのが定番ですが、こうした専門店では客の注文に応じて牛乳の代わりに豆乳や甘酒をブレンドしたり、使用するバナナの本数が選べるほか、バナナの糖度や生産地にこだわるなど、様々な特色を打ち出しています。

香りがよく、甘さが穏やかなバナナは、様々な食品との相性がよく、アレンジの幅が広いことが人気の理由の一つですが、カリウムやビタミンなどを豊富に含むため、昨今の健康志向の高まりにもマッチしており、「バナ活」人口は増加中とのことです。

輸入数量・金額の推移(年、全国)

(単位 数量:千トン 金額:億円)

	輸入数量			輸入金額		
	年間	上半期 下半期	対前年比	年間	上半期 下半期	対前年比
2012年	1,086.2	561.2 525.0	-	708.1	373.0 335.1	-
2013年	974.8	492.2 482.6	89.7%	795.4	404.1 391.3	112.3%
2014年	946.2	477.3 468.9	97.1%	856.5	420.3 436.2	107.7%
2015年	958.8	479.7 479.1	101.3%	1,019.0	487.7 531.3	119.0%
2016年	956.1	488.1 468.0	99.7%	1,003.1	513.4 489.6	98.4%
2017年	985.2	493.4 491.8	103.0%	949.8	496.4 453.3	94.7%
2018年	1,002.4	512.2 490.2	101.7%	1,005.5	507.5 498.0	105.9%
2019年	1,044.7	513.6 531.1	104.2%	1,042.7	513.6 529.1	103.7%
2020年	-	540.8 -	-	-	534.3 -	-

<参考> プランティン(生鮮のもの)の
輸入数量・金額の推移
(統計品目番号0803.10-100)
(単位 数量:トン 金額:千円)

年	輸入数量	輸入金額
2012年	198.6	20,005
2013年	315.3	52,864
2014年	449.2	88,131
2015年	879.7	201,212
2016年	645.0	108,911
2017年	513.3	69,773
2018年	490.8	59,181
2019年	700.1	85,852
2019年上半期	365.1	44,988
2020年上半期	329.2	43,689

ツンドク



カルダバ



リンクッド



ジャイアント・
キャベンディッシュ



セニヨリータ
(モンキーバナナ)



モラード



ラッソダン



輸入数量・金額の推移(月、全国)

(単位 数量:千トン 金額:億円)

年月	輸入数量	輸入金額
2015年 1月	65.0	57.3
2015年 2月	67.5	60.7
2015年 3月	75.5	73.1
2015年 4月	94.0	97.1
2015年 5月	89.2	97.5
2015年 6月	88.5	102.0
2015年 7月	83.1	96.1
2015年 8月	76.5	88.3
2015年 9月	85.6	99.6
2015年 10月	87.3	97.9
2015年 11月	76.7	83.4
2015年 12月	69.9	65.9
2016年 1月	68.5	63.7
2016年 2月	75.7	73.5
2016年 3月	80.5	85.5
2016年 4月	87.9	96.2
2016年 5月	91.1	100.9
2016年 6月	84.3	93.7
2016年 7月	77.6	87.4
2016年 8月	75.0	87.2
2016年 9月	84.8	101.6
2016年 10月	78.4	82.3
2016年 11月	79.4	71.2
2016年 12月	72.8	59.9
2017年 1月	68.5	57.6
2017年 2月	70.1	62.2
2017年 3月	80.7	76.3
2017年 4月	92.5	96.8
2017年 5月	95.5	108.6
2017年 6月	86.1	95.0
2017年 7月	85.9	90.4
2017年 8月	86.9	89.2
2017年 9月	85.7	81.4

年月	輸入数量	輸入金額
2017年 10月	78.7	67.6
2017年 11月	81.1	63.7
2017年 12月	73.5	61.0
2018年 1月	70.7	56.7
2018年 2月	71.2	61.8
2018年 3月	85.2	79.5
2018年 4月	88.8	94.2
2018年 5月	101.0	111.6
2018年 6月	95.3	103.8
2018年 7月	81.2	88.2
2018年 8月	88.3	97.0
2018年 9月	82.1	88.1
2018年 10月	85.9	84.7
2018年 11月	75.9	70.0
2018年 12月	76.6	70.0
2019年 1月	75.8	70.2
2019年 2月	77.7	70.5
2019年 3月	77.2	72.3
2019年 4月	96.5	99.7
2019年 5月	101.3	108.9
2019年 6月	85.1	92.1
2019年 7月	94.2	102.0
2019年 8月	84.2	93.4
2019年 9月	89.5	98.1
2019年 10月	95.6	92.4
2019年 11月	81.1	72.0
2019年 12月	86.5	71.1
2020年 1月	80.0	73.3
2020年 2月	77.2	72.0
2020年 3月	81.6	72.6
2020年 4月	93.3	93.4
2020年 5月	107.8	111.4
2020年 6月	101.0	111.6

原産地域(国)別輸入数量の推移

(単位:千トン)

地域(国)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
アジア	1,037.5	917.8	879.9	832.1	760.9	797.9	846.4	846.2
フィリピン	1,026.5	909.0	873.9	824.0	750.7	790.3	838.0	836.1
台湾	8.4	6.8	4.1	3.2	1.6	1.1	1.8	2.9
ベトナム	-	0.0	-	0.0	1.0	1.9	2.3	2.5
インドネシア	-	-	-	2.8	5.8	2.6	2.3	2.8
タイ	1.8	1.4	1.4	1.9	1.9	2.1	2.1	2.0
その他のアジア	0.7	0.5	0.5	0.1	-	-	-	0.0
中南米	48.7	57.0	65.9	126.3	195.2	187.2	155.9	198.4
エクアドル	35.9	41.0	48.1	100.4	157.7	146.9	110.6	119.1
メキシコ	2.9	3.0	3.1	4.3	8.6	20.2	27.9	54.3
グアテマラ	0.8	4.1	7.3	14.7	16.9	9.9	7.8	12.6
その他の中南米	9.1	9.0	7.5	6.9	11.9	10.2	9.5	12.4
その他	-	0.0	0.4	0.3	0.0	0.1	0.1	0.1
合計	1,086.2	974.8	946.2	958.8	956.1	985.2	1,002.4	1,044.7

フィリピン産バナナの輸入平均単価推移

年月	輸入金額(千円)	輸入数量(トン)	輸入単価(円/kg)
2019年1月	5,810,511	62,040.4	93.7
2019年2月	5,834,519	64,111.6	91.0
2019年3月	5,816,194	61,787.8	94.1
2019年4月	7,817,579	75,469.0	103.6
2019年5月	9,070,297	83,701.2	108.4
2019年6月	7,445,823	67,825.0	109.8
2019年7月	8,401,428	76,272.9	110.1
2019年8月	7,573,597	65,964.5	114.8
2019年9月	7,888,806	69,325.5	113.8
2019年10月	7,451,645	75,897.2	98.2
2019年11月	5,719,764	64,277.0	89.0
2019年12月	5,611,955	69,436.6	80.8
2020年1月	5,829,236	62,885.1	92.7
2020年2月	5,739,440	60,811.6	94.4
2020年3月	5,615,846	63,183.4	88.9
2020年4月	7,313,046	71,656.8	102.1
2020年5月	8,622,835	81,897.9	105.3
2020年6月	8,460,589	72,711.5	116.4

港別輸入数量(2019年) (単位:千トン)

港	輸入数量	構成比
東京港	317.6	30.4%
神戸港	283.3	27.1%
川崎港	154.1	14.7%
博多港	85.6	8.2%
横浜港	74.4	7.1%
名古屋港	72.5	6.9%
その他	57.2	5.5%
合計	1,044.7	100.0%

港別輸入金額(2019年) (単位:億円)

港	輸入金額	構成比
東京港	306.7	29.4%
神戸港	283.6	27.2%
川崎港	153.1	14.7%
博多港	85.3	8.2%
横浜港	81.1	7.8%
名古屋港	71.7	6.9%
その他	61.2	5.9%
合計	1,042.7	100.0%



収穫直前のバナナ(全房)。実際には実の保護のため、袋がけされています。

参考資料:

- 1 国際連合農業食糧機関(FAO)，“All about bananas: things You should know about the tropical fruit “, 2016-10-26, <http://www.fao.org/zhc/detail-events/en/c/446573/>, (参照2020-08-30)
- 2 国際連合貿易開発会議(UNCTAD)，“BANANA“, 2016, https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/INFOCOMM_cp01_Banana_en.pdf, (参照2020-08-31)
- 3 合同会社ドール監修,「ドール社員が教える きょうのバナナレシピ」, 永岡書店,2013, p29

取材協力: 日本バナナ輸入組合

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎 <http://www.customs.go.jp/tokyo/>